

論文要旨

学位論文題目 清代広州の都市空間と秩序

氏名 梁敏玲

本稿は、清代中国都市の一事例として広州を取り上げ、空間という視点から、清代都市の性格の再考を目指すものである。

明清時代の広州は、華北や江南の大都市とは異なる独自の性格を保持していた。本稿では、広州の独自性と、清代の特徴に注意しつつ、都市を規定する諸側面や都市に対する人々の認識から、清代広州における秩序の形成とその在り方を検討した。

本稿の構成は、第一部・第二部・補論（全六章）からなる。第一部（第一、二章）では、軍事と行政制度から、城壁に囲まれた城部という空間と、現在の都市認識にあたる、城外の商業地の廂部を含む城廂部という空間の扱われ方を考察した。第二部（第三・四・五章）では、人々の移動と定着の面から、人々と都市との関係が如何に展開したのかを考察した。補論では、嘉慶9（1804）年初刊の小説『蜃楼志』を取り上げ、小説に見る18世紀末から19世紀初頭にかけての都市広州の空間感覚とネットワークの形態を検討した。

本稿は全体として以下の3点を明らかにした。第1に、広州の統治拠点という位置から、城部に駐屯した軍隊の実態と、その背後の制度的論理、及び城内の諸官庁と広州城の住民との関係を解明した。広州は、広東省の省城で、華南地域における清朝の統治拠点として機能していた。広州城を守るため、八旗・緑営が駐屯し、更に緑営の中でも、各城に配置される城守協のほか、八旗將軍直属の緑営軍隊や、広東巡撫（1746年から両広総督も移駐）、及びその直属の緑営軍隊も駐屯していた。清朝の配慮により、諸系統が各自の管轄区域を持ち、互いに直接・間接の上下関係があった。このような城防は、緊密に構造化された体系ではなく、むしろ各自が中央と結びついた各種の軍隊からなる緩い集合体であった。

統治拠点という位置により、広州には、軍隊のほか、多様な行政レベルの官庁も配置されていた。身近な大量の官僚と軍隊は、広州城の住民の社会生活を支える日常的要素の一つであり、事件が起こった際にはすぐに救助を求められる対象でもあった。こうした官との近接性は、城内という空間の大きな特色を成していた。

第2に、周辺の郷村地域を視野に入れて、郷村部との関係から城廂部の在り方を明らかにした。州県行政制度の運営面から見ると、行政側は社会経済的状况に応じ、城外の廂部を含め、城廂部を1つのまとまりとして把握していた。清代広州において、城廂部の範囲は、それぞれ南海県・番禺県の捕属区画として確立されてきた。広州の捕属区画は、最初は治安維持による空間的区画であり、その後移住民の入籍によって税糧・戸籍区画と重なるようになり、更に複雑化する清末の地域社会において、1つの行政単位となり、地方の公共事業の区画にまでその役割を拡大していった。周辺の郷村部の「司属」（巡検

司区画)は、宗族の繁栄と図甲制から影響を受けつつ確立され、捕属の成立はそれと対比される結果であった。

郷村部との関係は、行政制度のみならず、社会面でも広州の性格に大きな影響を与えていた。明清交替期の動乱や図甲による徴税制度の成立により、有力な紳士たちが広州城から郷村へ居住する動きが起こり、紳士・宗族といった人的構成の面で、珠江デルタとの関係が希薄化してゆく転換は、清代の広州社会の構造的な変化を生み出した1つの要因であった。

第3に、移住者、滞在者、駐防の旗人といった住民と都市との関係の展開過程を通じて、都市社会における秩序形成・変容を論じた。清代では、対外貿易の繁栄で広州の移住民が急速に増加し、移住民の土着化過程では様々な結合が見られた。同族の血縁関係、定住地域の地縁関係、入籍での地方行政制度等、これらの結合はそれぞれ異なる要素と絡んでおり、結合自体も非常に緩かった。結合の生成過程では、郷村と対比される、都市の側面が鮮明でありながら、他県・他省に対比される本省・本県の側面や、城部に対比される廂部の城郭都市の構造と関連する側面も見て取ることができる。

土着民だけでなく、定住者と滞在者を含む都市住民全体と都市社会との関係の一部は、居住空間の「街」に基づき展開された。「街」による結合は、近隣関係と行政側の施策に影響を受けつつ形成されており、都市の公共事業の多くを担っていた。開放性を有する「街」が都市の基礎単位になっていたが、結合自体は柔軟的なものであった。

一方、旗人と都市社会との関係の展開は、属人主義的な編成原理に基づく八旗制度と旗人の集団性に規定されていた。民人と分かれて旗境に居住する旗人が都市社会に融け込んでゆくと同時に、旗人の存在や旗人と民人との区別を強く意識する動きが見られた。その過程で、八旗制度における漢軍・満洲の違いも、満漢同駐への変化の中で、周囲の環境に対抗して団結しようとする満洲旗人の志向によって鮮明化していった。

以上の内容をまとめると、本稿は、広州を通じて、制度・社会的要素と絡み合っていた清代の城郭都市の空間領域の多重性、都市住民の空間感覚やアイデンティティーの重層性、及びこの両者を規定した秩序形成の複雑なメカニズムを提示し、清代都市の一側面を明らかにした。